



朝日新聞「天声人語」(2015～2024年)に見る和語・漢語・外来語の使用実態

黄, 悦齐

(Citation)

統計数理研究所共同研究リポート, 481:72-83

(Issue Date)

2025-03-25

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(JaLCD0I)

<https://doi.org/10.24546/0100493760>

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/0100493760>



朝日新聞「天声人語」(2015～2024 年)に見る

和語・漢語・外来語の使用実態

黄 悦齐(華東師範大学／神戸大学・大学院生)

3240752303@qq.com

Japanese Words, Chinese-origin Words, and Foreign-origin Words Seen in Asahi Shimbun's "Tensei Jingo" from 2015 to 2024

HUANG, Yueqi

(East China Normal University, China and Kobe University, Japan,
Graduate Student)

概要

日本語には各種の語種が存在するが、近年では外来語の増加などがしばしば指摘される。しかし、最新のデータを用いた計量研究は必ずしも多くない。そこで、本研究では、2015 年から 2024 年までの朝日新聞の「天声人語」を対象に、和語・漢語・外来語の比率の通時的変化を調査した。その結果、(1)語種比率は 10 年間を通して漢語>和語>>外来語の順で不変であると、和語は緩やかに増加し、漢語は緩やかに減少していること、外来語の割合は横ばいであること、(2)各年の特徴づける語彙を抽出し、314 種・計 453 語を語種別に分析した結果、各年の「天声人語」には社会的関心や特定の出来事を反映した語彙が特徴的に多用されていること、(3)日本語教育で扱われていない可能性が高い語彙を抽出し、その使用実態を整理した。こうした結果は、今後の新聞エッセイを中心としての日本語学や日本語教育における資料として、有益性を持つものと言えよう。

キーワード

天声人語、日本語教育、和語、漢語、外来語

1. はじめに

世界の諸言語の中で、日本語の大きな特徴の一つは、複数の語種体系を有している点である。例えば、和語には「ほほえみ」「いろ」「始まる・(め)る」、漢語には「微笑」「色彩」「開始(する)」、外来語には「スマイル」「カラー」「スタート(する)」などがあり、さらに「長ズボン」「手製」「メモる」といった異なる形態素が組み合わさった混種語も存在する。これらの語種は、それぞれ異なる役割を果たしていると考えられているが、現代日本語において、各語種がどの程度使用されているか、語種ごとにどのような語が特徴的に使用されているかは必ずしもはっきりしない。この点は、日本語学においても日本語教育においても、興味深い研究課題となりうる。

2022 年に刊行された国語辞書の見出し語調査によれば、一般語のうち、和語が 31.2%、漢語が 49.9%、外来語が 0.8%という分布であったと報告されている(沖森・木村・陳・山本, 2024)。しかし、辞書の見出し語は完全な頻度主義で採録が決定されているわけではなく、また、日本語使用実態の時間的変化もそれほど考慮していない。ゆえに、現代日本語の実際的な使用場面で各語種がどの程度使用されているかは、この情報だけでは明らかでない。

語種の実際的な使用状況を見ようとする場合、新聞・雑誌・小説・テレビ・日常会話など、様々な媒体が想定される。このうち、日本語の時代的变化を反映しやすいものは、同じフォーマットで長期にわたって刊行されている新聞であろう。日本語学では、山口(2007)や橋本(2010)などが、新聞記事や社説を用い、語種比率の経年変化を調査している。また、日本語教育では、小宮(2004)や中條ら(2010)など、同じく新聞記事などから学習者向けの重要語を抽出した研究もいくつかなされている。しかしながら、こうした研究の多くは、使用されるデータが 2010 年代ごろまでに限られており、時事要因の影響を受けやすい記事に限った調査が多い。この点をふまえると、過去の主要な研究だけでは、語種比率や語種ごとの重要語に関する近年の言語変化が完全にとらえられていない可能性も残る。

この点に関して、日本語学では、山口(2007)や橋本(2010)などによって、新聞記事や社説を用いた語種比率の経年変化が調査されている。しかし、それらのデータは 2010 年代までに限られており、また、時事要因の影響を受けやすい記事に限った調査となっている。

そこで、本研究では、新聞テキストのうち、時事的要因の影響を直接に受けにくいエッセイとして、朝日新聞の「天声人語」に注目し、過去の主要研究でカバーされていない、2015 年以降、2024 年までのデータを分析対象とすることで、この間の語種別使用量の変化、各年を特徴づける語彙、日本語学習において留意すべき重要語彙の 3 点を明らかにすることとしたい。

2. 先行研究

本節では、まず、これまでの現代日本語の語種変化を対象とした量的語彙調査を概観する。具体的には、主な語種研究の結果を共時的調査及び通時的調査に分けてまとめる。

表 1
共時的調査

研究者	調査資料	調査結果
国立国語研究所 (1952)	1949 年朝日新聞の 1 ケ月分の記事	外来語は全体を通じて、語種も使用度も低い
石井(1989)	「天声人語」	外来語は約 4%を占め、特に単純語が多い
佐竹(2002)	1997 と 1998 年の朝日、毎日、読売新聞の生活家庭面の記事	外来語：異なり語数>10%、延べ語数>5%
国立国語研究所	1994 年の雑誌 70 誌	和語：41.5%、漢語 45.9%、外来語：10.7%、混

(2005)		種語:2.0%(平均延べ語数)
--------	--	-----------------

表 2

通時的調査

研究者	調査資料	調査結果
国立国語研究所 (1987a)、石井 (1990)	1906～1976 年の総合 雑誌「中央公論」	外来語の語数変化:戦前までゆっくりとした増 加、戦後急激に増加傾向がある
山田(2005)	1871～2003 年の小説	外来語の量的推移:全体的に増加傾向がある
山口(2007)	1994～2002 年の毎日 新聞の記事	和語:39.4%、漢語:54.1%、外来語:5.0%、混 種語 1.5%(平均延べ語数)
橋本(2010)	1911～2005 年の朝日 新聞の「社説」	和語:41.7%、漢語:55.2%、外来語:1.7%、混 種語 1.3%(平均延べ語数)
橋本(2010)	1960～1999 年の朝日 新聞の投書欄「声」	朝日新聞の投書欄と社説の外来語の推移は互 いに似ている
田中(2017)	日本語歴史コーパスと雑 誌コーパスのデータ	日本語史の近代を、明治時代以降ととらえると き、漢語爆発期、漢語淘汰期、外来語増大期の 3 期に分けられる

続いて、日本語教育分野で、新聞を用いた重要語抽出の研究を概観する。

表 3

日本語教育に関する研究

研究者	研究対象	調査結果
小宮(2004)	教科書「経済の専門導入期 における専門連語」と新聞 における経済の専門連語	教科書に掲載された専門連語 326 語と新聞 記事の専門連語 618 語を、日本語能力試験 (旧 1 級) の語彙との関係から比較分析した。 その結果、教科書の専門連語には、新聞の専 門連語と比べて日本語能力試験 1 級の動詞・ 名詞が多く含まれていることが分かった。
中條ら(2010)	対象コーパス:「新聞コーパ ス」(日英新聞記事対応付 け) の日本語部分、参照コ ーパス:「散文コーパス」(英 対訳文対応付け)の日本語 部分	特徴語抽出法を日本語の新聞コーパスに適 用し、特徴度の高い「新聞に特有な語」計 664 語を抽出・順位付けした。また、それらの対応 する英語・中国語・韓国語訳を付し、「日本語 新聞キーワード」を作成した。

松本ら(2015)	日経新聞の記事およびNHKサイトのニュース	中上級日本語学習者向けに、新聞やテレビニュースで頻出する重要語彙 1000 語を 4 分野に分類し、英訳と用例を添えてまとめた。
一橋大学国際教育交流センター(2015)	ジャーナリズムを中心としたニュース報道記事	日本語非母語話者である外国人留学生向けに、ニュース報道から抽出した重要語彙を「身体に関する語」「身近なものに関する語」「戦いに関する語」「社会的背景に関する語」「元の形から変化した語」の 5 分野に分類した。

過去の研究は、それぞれ、価値ある知見を明らかにしているが、すでに述べたように、時事的要因の影響を受けにくいテキストに基づく分析や、過去 10 年程度の最新の言語変化を調査した研究は少なくない。この点をふまえると、新しいデータを用いた検証研究が必要だと思われる。

3. リサーチデザインと手法

3.1 研究目的と研究設問

すでに述べたように、本研究は、先行研究の制約を補完するという狙いのもと、時事的要因の影響を受けにくい朝日新聞の「天声人語」に注目し、2015 年以降 2024 年までのデータを分析することで、この間の語種別使用量の変化、各年を特徴づける語彙、日本語学習において留意すべき重要語彙の 3 点を明らかにすることとしたい。この目的に沿い、以下の 3 つの研究設問(RQ)を設定する。

RQ1 各語種の頻度は、直近 10 年間に於いて、どのように変化しているか？

RQ2 各語種に関して、直近 10 年の各年を特徴づける語にはどのようなものがあるか？

RQ3 各語種の年次別特徴語のうち、日本語教育で扱われていない可能性が高い語彙にはどのようなものがあるか？

3.2 データ

はじめに、本研究が語種の経年変化調査の資料として、新聞の中でも、朝日新聞の「天声人語」を資料とする根拠について述べておきたい。

まず、語種の出現状況の変化を分析する際には、各年を通して内容や文体が安定したテキストをサンプルとすることが望ましいといえるだろう。この意味で、新聞は、長期間にわたって多様な文章が掲載され、マスメディアの中心的媒体として位置づけられることから、現代日本語の通時的計量調査の資料として妥当性が高い(橋本, 2010)。

日本語の新聞は様々な新聞社から刊行されており、それぞれに記事・社説・投書・エッセイ等、様々なテキストタイプが含まれる。各々はそれぞれ独自の資料的価値を持つが、記事や社説の内容は、時々の事件や話題となっている出来事に大きく影響されるため、言語変化が安定的にとらえにくいという制約もある。この点をふまえれば、特定の時事的事象の影響を受けにくいものとして、

エッセイテキストを利用することが妥当だと考えられる。エッセイについては、どの新聞においても類似したものが存在するが、その中では、朝日新聞の「天声人語」が高い知名度を持っている。実際、「天声人語」は、「書き写しノート」が別途書籍として発売されるなど、現代日本語のある種の手本として広く認識されている。

「天声人語」は、朝日新聞の朝刊一面に掲載される看板コラムである。多岐にわたる問題を書き手個人の立場で解釈し、自分の意見を述べる 600 字程度のエッセイである。時事的な事象だけでなく、日々の生活での著者の小さな気づきに基づく内容も多く、新聞記事に比べると、特定の事象の影響の度合いは小さい。加えて特筆すべきは、「天声人語」はもともと単一著者による執筆であり、2022 年以降も 3 名という少数著者の交代執筆になっているということである。書き手の数少ないため、書き手の差による影響が小さく、言語調査の資料として適切性が高い。

3.3 研究手法

まず、「天声人語」のデータ取得方法について述べる。本研究は、「朝日新聞クロスサーチ for Library」を用い、2015 年から 2024 年までの 10 年間を対象に、毎月 3 日分の「天声人語」の記事テキストを集める。サンプリングポイントは、各月の 4 日、14 日、24 日とするが、祝日などで対象日に「天声人語」が掲載されていない場合は、翌日のデータを取る。データ収集にあたっては、「(天声人語)」という四字タイトルと、「控(ひか)える」のなかの「(ひか)」のような振り仮名(ルビ)表記及び数字は調査対象から除外する。

次に、分析対象とする語の範囲について述べる。日本語では、助詞が大量に出現するわけだが、これを含めると、テキストの圧倒的大部分がすべて和語ということになってしまい、各語種の時間的な変化の観察が難しくなる。そこで、本研究は多くの先行研究に倣い、自立語(和語・漢語・外来語)のみを対象として分析を行う。

以下、研究設問ごとの分析手法を述べる。まず、RQ1 については、テキストデータに対して形態素解析を行い、語種比率を明らかにする。形態素解析には、オンライン形態素解析ツール「Web 茶まめ」を使用する。形態素解析の結果から、「品詞」類別に助詞、助動詞、記号、空白を除外し、残された自立語の語種別の延べ語数を記し、各語種の割合を求める。なお、解析結果には「固有」という分類があるが、これは主に外来語も漢語も含む人名や地名という固有名詞である。本研究では「Web 茶まめ」の辞書見出しを基準とするため、「固有」の再分類は行わない。得られた結果は、折れ線グラフで示すとともに、線形回帰分析の結果を合わせて記載する。

次に、RQ2 について、各年のテキストファイルと、10 年分全体をまとめたマージファイルを用意し、各年ファイルを対象コーパス(target corpus)、マージファイルを参照コーパス(reference corpus)にして、コーパス検索用のコンコーダである AntConc(V.4.3.1)で特徴語(keyword)検索を行う。特徴語検索とは、対数尤度(log-likelihood ratio)などの統計量を手がかりとして、2 コーパスにおける頻度を比較し、一方において顕著に多く出現している語を検出する検索技術のことである(石川,2021)。これにより、10 年間全体に対して、特定年次においてのみ、顕著に多用される語彙が抽出できる。なお、特徴語分析では、テキストに含まれるすべての語の頻度について検

定を反復するため、有意水準の緩和が起こりうる。AntConc では、この問題に対処するため、Bonferroni 補正を行って有意水準の緩和を抑止する措置が取られているが、今回のデータはサイズが小さく、この補正を行うと十分な量の結果が得られない。そこで、補正を行わず、有意水準 $\alpha=1\%$ 水準に相当するカイ二乗統計量である 6.63 を超えるものを特徴語とみなす。

最後に、RQ3 については、以上で得られた年次別特徴語のうち、一般の日本語教育で扱われていないものを抽出するため、「日本語教育語彙表」(Sunakawa, Lee, & Takahara, 2012)との照合を行う。「日本語教育語彙表」は、「現代日本語書き言葉均衡コーパス」(BCCWJ)や日本語教科書コーパスから選定された 1 万 7 千 920 項目のリストである。日本語能力試験の旧 1 級の語彙サイズが 1 万語であったことをふまえると、「日本語教育語彙表」に含まれていない語は、一般の日本語教育で、現状、扱われていない可能性が高いと判断される。

4. 結果と考察

4.1 RQ1 総体的な語種変化

まず、2015 年から 2024 年までの語種比率の変化を調査したところ、以下の結果を得た。

図 1

語種別に見る自立語の頻度変化

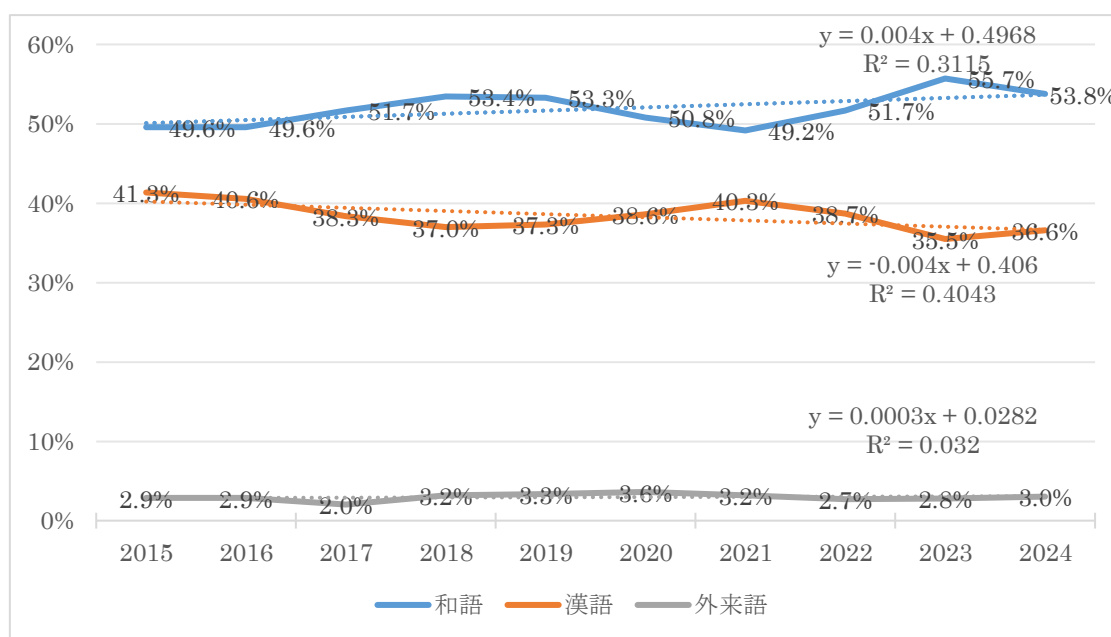


図 1 から読み取れる傾向として、3 点指摘したい。1 点目は、和語>漢語>>外来語という順位関係が、10 年間、不動であったということである。このことは、山口(2007)の「語種比率の時間的変化に関して、延べ形態素数、異なり形態素数、共に大きな変化は認められなかった」という観察や、橋本(2010)の「社説の語種比率は年代を問わず安定しており、通時的変化がほとんど見られない」

という観察とも一致していることが分かった。

2 点目は、和語・漢語・外来語のそれぞれが、異なる変化のパターンを示したことである。和語の回帰式の説明力は 31%、係数はプラスであることから、和語は、10 年間にわたり、細かい増減を繰り返しつつも、全体としては増加傾向にあると言える。次に、漢語の回帰式の説明力は 40%、係数はマイナスであることから、漢語は和語と同様に増減を繰り返しつつ、全体としては減少傾向にあると言える。最後に、外来語については、回帰式の説明力が 0.03%にとどまっており、増加も減少もしていないことになる。「日本語は飽くことなく外来語を吸収し続けている」という山田(2005)の指摘にもあるように、外来語の氾濫がしばしば指摘されるが、本研究では、こうした傾向は確認されなかった。一般に言われる外来語の過剰使用は、特定の分野や若者向けのメディアに限ったものであるかもしれない。

4.2 RQ2 和語・漢語・外来語の特徴語

次に、2015 年から 2024 年までの年ごとに特徴づける語、つまり、10 年間全体頻度に対して当該年において統計的に有意に多く出現している語を調査したところ、以下の結果を得た。

表 4

各年を特徴づける和語・漢語・外来語

年	和語	漢語	外来語	語数
2015	空、羊、星、勝、日、思い出す、ごみ、山、手もと、身代、犬、青空、晴れ、うた、折々、いう、抜き、青	書店、主義、後見、憲法、権、女房、大気、天井、少女、投票、危機、絵本、核、判断、法廷、時評、分別、期限、登山、汚染、好機、裁、集団、市民、秩序、遭難、職業、信者、対処、絵、幕、困難、爆発、最高、支配、平和、悲観、寝台、回	カーテン、パイロット、イスラム、ラグビー、ガラス	63
2016	鏡、車、窓、受け止め、子育て	顕微、難民、党、土俵、知事、憲法、地震、余震、報道、本震、加害、男性、石油、草案、余裕、税、保護、世代、安保、氏、開催、条、育児、最初、有名、通貨、運転、改憲、相談	テロ、ビット、コイン、ロック、ソング、ショック	38

2017	さらさら、詠み人、醬、梅、ニイニイ、セミ、黒潮、ソメイヨシノ、づくし、花、ひ、そよ風、よし、昔、鯛、懐かしい	万葉、教育、みかん、代、幼児、銃、集、台風、監査、検査、院、気象、現金、学園、予報、会計、打撃、基地、画家、甲子、役、以降、原子、雑誌、五、売却、食膳、将校、棄教、蜜柑、東名、薩長	ゼミ、コスモス、ダンス、シール	45
2018	蚊、網、おもちゃ、笑顔、好き、噂、っこ、ゴミ、ゴミ拾い、歳、あたたか、虫捕り	結核、世襲、財務、労働、銃、菌、移民、電話、医師、観客、成人、議員、回収、信心、客人、街路、門閥	メダル、ポケベル、ギター、ボンゴ、サンタ、ファン	34
2019	柿、川、祭、店、ハリネズミ、あきらめ、おしゃれ、なでしこ、園、いつ、雪、へ、殻、ウソ、冬、食べ物	土用、駅、臘梅、大嘗、河川、ひいき、動物、像、聖火、離脱、写真、検閲、法王、保険、女子、表情、失言、儀式、階、乾燥、猛獣、様子、天体、注文、芸術、天皇	ランドセル、エレベーター、トーチ、ライオン、チーム、だるま、ギャグ、サッカー、ワイン	49
2020	カエル、ビエ、風邪、ヘビ、ホテル、北、飛び交っ、闇、詠む、湖、貝、まだら	感染、紫外、良、真珠、線、黒人、曲、疑惑、命令、会、自粛、停電、分科、警官、可、延期、養殖、三権、病気、字、政府、行政、猛威、不時、応酬、楓	ウイルス、アマ、コロナ、ドラマ、ワクチン、マスク、ブラインド、バインド	45
2021	仲間、カニカマ、草刈り、カニ、ヒト、マグロ、丸、型、助	五輪、太子、妃、博士、闘争、事故、原因、鉄道、条理、仁政、脱線、接種、国軍、放棄、遺族、討論、生物	コロナ、ワクチン、リボン、ロボット、メタセコイア、パラリンピック	32
2022	花火、コメ、背骨、津波、全て、居直り、訴、恐れ、雪、限、春、祈り、西側、仕立、薔、造	供養、仏教、特攻、戦争、通信、重力、月面、恍惚、大曲、侵攻、訓練、紅葉、爆撃、兵、新米、サザン	サイド、ユビキタス、マイル、ファシスト	51

		カ、代議、委、軍医、苑、大統領、カ月、人工、文豪、冬季、用語、本質、五輪、山茶花、降雪、銘板、無常、腰痛、巨獣		
2023	母、何、クジラ、ちゃん、息子、辞め、裏切り、におい、なら、欲しい、知る、ただ、広く、母親、岳、言葉、いく、うえ、ズケズケ、母娘、ザックバラン、日めくり、とり、その	万博、戸籍、標本、保存、無、団、記憶、先生、弁、暴力、別人、目的、校長、警備、解剖	ラベル、タックス、パテ、ダム、ファクス、オリジン、シングル	43
2024	フクロウ、椿餅、糸、値上げ、わかる、路、ハ、肩書、雨、何、離れ、村、猫、わかっ、コ、織物	校歌、世論、保守、放送、財団、輿論、滑走、付則、ハクチョウ、衝突、賞、移住、調査、機械、郵便、姓、刷新、じつ、農夫、図書、興味、野生、公共、交代、規正、金庫、不妊、斜線、知性、磁器、ガン、機心、制度	カップ、チョコレート、リバタリアン、ストロー、ラジオ、トリュフ、マカロニ、オーロラ、ラーメン	53
語数	138	252	63	453

上記より、10 年間につき、1 年あたり約 45 語、また、10 年間全体で、和語は 138 語、漢語は 252 語、外来語は 63 語、全体で 453 語の特徴語が抽出された。この中には重複も含まれるため、異なり語種数は全体で 314 種となる。これらの特徴語は、特定の出来事や社会的関心と強く結びついている可能性が高い。以下に、語種別の傾向を整理する。

まず、和語の特徴語は、社会的な変化や大衆の関心を反映する傾向がある。例えば、2016 年の「子育て」は、育児問題やワークライフバランスに関する議論の高まりと関連している。また、2015 年と 2018 年に共通して出現した「ごみ」は、海洋プラスチック問題や廃棄物政策への関心が影響していると考えられる。さらに、2019 年と 2022 年に「雪」が特徴語として抽出された背景には、それぞれ記録的な暖冬や大雪の影響がある可能性が高い。

次に、漢語の特徴語は、和語と比べて特定の出来事と直接結びつく傾向が強い。例えば、2021 年の「脱線」は、台湾東部で発生した列車脱線事故と関連している。また、2023 年の「万博」は、日本国際博覧会の開催準備に伴う話題の増加を反映している。さらに、「憲法」「銃」「五輪」などの語

彙は、政治や国際情勢、大規模イベントと関連しており、例えば「五輪」は 2021 年・2022 年の東京オリンピック・パラリンピックや北京冬季オリンピックの影響で特徴語となっている。

最後に、外来語の特徴語には、国際的な出来事(例:2021 年の「パラリンピック」)や専門用語(例:2016 年の「ビットコイン」)が多く見られる。また、新型コロナウイルスの影響を受け、「コロナ」「ワクチン」といった医学・感染症関連の外来語が複数年にわたり特徴語となっている。一方で、「チョコレート」「マカロニ」「カーテン」など、日常生活に密接に関わる語も含まれており、外来語の多様な性質が示されている。

以上により、各年の「天声人語」には、社会的関心や特定の出来事を反映した語彙が特徴的に多用されていることが分かった。

4.3 RQ3 日本語教育で扱われていない可能性の高い語彙

以上で、10 年間の各年次を特徴づける語彙を語種別に抽出した。全 314 種の特徴語の中には、「空」、「日」、「書店」、「少女」、「カーテン」、「ガラス」など、日本語初級者でも理解できる語彙も多く含まれているが、一方で、一般の日本語教育では扱われず、上級者でも理解が困難な語彙も少なくない。そこで、約 1 万 8 千語のサイズを持つ「日本語教育語彙表」との照合を行い、同語彙表に含まれていない語を抽出したところ、以下の結果を得た。

表 5

各年特徴語のうち、日本語教育語彙表に含まれていない語彙

和語	漢語	外来語
手もと、身代(身代わり)、うた(歌)、詠み人、醬、セミ、ソメイヨシノ、づくし、ひ(日:漢語)、そよ風、鯛、ゴミ拾い、虫捕り、ピエ、飛び交っ(飛び交う)、詠む、カニカマ、草刈り、カニ(かに:和語)、ヒト(人:漢語)、マグロ(まぐろ)、助(助け)、居直り、クジラ(鯨)、辞め、なら、岳、いく(行く)、うえ(上:漢語)、ズケズケ(ずけずけ)、母娘、ザックバラン(ざっくばらん)、とり(鳥)、椿餅、わかる(分かる)、肩書(肩書き)	後見、時評、好機、裁(最高サ裁)、幕、顕微、余震、本震、加害、草案、安保、条、改憲、万葉、甲子、食膳、将校、棄教、東名、薩長、信心、客人、門閥、土用、臘梅、大嘗、聖火、検閲、失言、紫外(紫外線)、分科、三権(三権分立)、不時、応酬、楓、太子、妃、条理、仁政、国軍、月面、恍惚、大曲、サザンカ、代議、委、軍医、苑、カ月、文豪、山茶花、銘板、無常、巨獣、標本、校歌、輿論、付則、ハクチョウ、刷新、じつ(実)、規正、磁器、ガン、機心	ロック、ポケベル、ボンゴ、サンタ、ファンド、トーチ、だるま(漢語)、アマ、バインド、メタセコイア、パラリンピック、ユビキタス、ファシスト、タックス、パテ、ダム、ファクス、オリジン、シングル、リバタリアン、トリュフ

上表には、形態素解析の結果として、語の成分が独立した語として扱われているものや、表記の違い・音読み・訓読みの差による影響が含まれている。また、現代日本語では使用範囲の狭い特殊な語彙も含まれている。例えば、「銘板」や「ユビキタス」のように、専門性が高く、日本語学習者全員が知っておくべきとは言えない語も見られる。一方で、「いく」「とり」「じつ」など、新聞に限らず現代日本語において広く使用されている語も少なくない。こうした語については、「いく」「とり」「じつ」という表記では日本語教育語彙表には含まれていないが、「行く」「鳥」「実」という表記では収録されている。そのため、本研究では「いく（行く）」のように、日本語教育語彙表に含まれる表記を括弧内に示すことで対応関係を明示する。

以上のような語彙は、新聞エッセイの年次特徴を示すものであるが、一般的な日本語学習で指導されることは極めて少ないと思われる。たとえば、和語であれば「そよ風」や「ゴミ拾い」、漢語であれば「好機」や「規正」、外来語であれば「ロック」や「ダム」などである。これらについては、「天声人語」の用例などを参考として、今後、教材への導入を検討する余地もあるだろう。

- (1) そよ風がくまなく社会に行き渡るのはいつだろう。(2017/09/13)
- (2) 現地で取材中の同僚に聞くと、日本式の後片付けは絶賛調で報じられ、会場でも触発されてゴミ拾いを手伝う地元ロシア人の姿が見られたそうだ。(2018/07/04)
- (3) 悲観主義者はすべての好機の中に困難を見つけるが、楽観主義者はすべての困難の中に好機を見いだす。(2015/01/24)
- (4) 国会では先週、抜け穴だらけの改正政治資金規正法が成立した。(2024/06/24)
- (5) ロック歌手の故・忌野清志郎さんが若者の気持ちを想像して書いた。(2016/06/24)
- (6) ダム決壊が何ゆえかは知らぬ。(2023/06/14)

実際に日本語の新聞エッセイを読む際、こうした語彙が理解できないと、読解が大きく阻害される可能性もある。今後の日本語教育においては、新聞エッセイにおいて、特定の年次を特徴づけるこうした語彙についても適切な指導を行っていくべきであろう。

5. まとめと今後の課題

本研究は 2015 年から 2024 年まで十年分の「天声人語」を対象に、和語・漢語・外来語の変化に着目して調査した。RQ1 では、和語と漢語は増減を繰り返しながらバランスを保ち、外来語の割合は約 3%で横ばいであることが明らかになった。また、語種の比率は 10 年間を通じて「漢語>和語>>外来語」という安定した構造を維持していた。RQ2 では、各年の特徴的な語彙を整理し、314 種の計 453 語を語種別に分類した。分析の結果、各年の「天声人語」には、社会的関心や特定の出来事を反映した語彙が特徴的に多用されていることが分かった。RQ3 では、RQ2 で得た語彙を

日本語教育語彙表と照合し、各語種の年次別特徴語のうち、日本語教育で扱われていない可能性が高い語彙を抽出し、その使用実態を整理した。こうして得られた結果は、今後の日本語学や日本語教育学における資料として有益性を持つものと言えるだろう。

本研究にはいくつかの限界がある。まず、本研究は「天声人語」に限定した分析であるため、SNS・専門誌・学术论文など他のメディアと比較し、メディア特性が語種使用に与える影響を検証する必要がある。次に、データの期間が比較的短いため、より長期的なデータを用いて語種変化のパターンを検証することが求められる。

引用文献

- Sunakawa, Y., Lee, J.-h., & Takahara, M. (2012). The construction of a database to support the compilation of Japanese learners' dictionaries. *Acta Linguistica Asiatica*, 2(2), 97-115.
- 一橋大学国際教育センター編 (2015). 『留学生のためのジャーナリズムの日本語: 新聞・雑誌で学ぶ重要語彙と表現』 スリーエーネットワーク.
- 石川慎一郎(2013). 「ICNALE を用いた中間言語対照分析研究入門: 日本人学習者の『特徴語』を再考する」『英語教育』(大修館書店) 61(13), 64-66.
- 石川慎一郎(2021). 『ベーシックコーパス言語学(2 版)』 ひつじ書房.
- 石川慎一郎(2023). 「学習者コーパス研究における横断・縦断データ統合の意義: I-JAS と B-JAS をめぐって」『言語資源ワークショップ発表論文集』1, 8-25.
- 沖森卓也・木村義之・陳力衛・山本真吾(2024). 『図解日本語 第2 版』 三省堂.
- 小宮千鶴子 (2004). 「経済の専門導入期における専門連語」『早稲田大学日本語教育研究センター紀要』18, 13-29.
- 田中牧郎(2022). 「日本語語彙の近代化における外来要素の受容と調整」『歴史言語学』12, 91-106.
- 伝康晴・小木曾智信・小椋秀樹・山田篤・峯松信明・内元清貴・小磯花絵(2007). 「コーパス日本語学のための言語資源: 形態素解析用電子化辞書の開発とその応用」『日本語科学』22, 101-123.
- 中條清美・木下謙朗・田辺和子・内山将夫・西垣知佳子(2010). 「日本語新聞キーワードの選定」『日本大学生産工学部研究報告 B』 9, 53-67.
- 橋本和佳(2010). 『現代日本語における外来語の量的推移に関する研究』 ひつじ書房.
- 山口昌也(2007). 「第 4 章 新聞記事における語彙の時間的变化分析: 語種との関係を中心に」『国立国語研究所報告 公共媒体の外来語』126, 89-102.
- 山口仲美(2023). 『日本語が消滅する』 幻冬舎.
- 山田雄一郎(2005). 『外来語の社会学: 隠語化するコミュニケーション』 春風社.